

I 今年度の取り組みと自己評価

1 教育活動への取り組みと自己評価

(1) 学習活動（確かな学力を育てるために）

今年度の取組目標	自己評価
生徒、教職員が共に高い志と「向上心」をもって、それぞれが切磋琢磨する。 新学習指導要領に基づいた学習活動が充実したものとなるよう更に研究・研修を重ねると共に、「総合的な探究の時間」と関連付けた組織的な教育活動の展開を図る。	① スクールポリシー及び実力テストに基づき、結果分析によって授業改善を行った。校内研修や各教科、学年等により問題点を共有化し、それにより生徒全体の進路希望を実現できるよう学力の向上を図った。 ② 課題・宿題・小テスト等を教科と学年が連携して計画的に課し、予習・復習を前提とした授業を行うことで、生徒に学習習慣を身に付けさせた。生徒の学力向上に繋がる生徒を伸ばす授業を、各教科で検討して実施した。 ③ 全教科・科目で大学進学を意識した年間授業計画を年度当初に作成し、生徒・保護者に周知するとともにホームページにも公開した。 ④ 新学習指導要領及び「グラントデザイン」に基づき生徒の身に付けるべき力を明確にし、各教科において観点別の評価基準を作成し、生徒・保護者に周知するとともにホームページに公開した。 ⑤ 習熟度別授業、少人数授業の実施や学力調査等の活用により、生徒一人一人に応じた指導の徹底と基礎学力の育成を図った。 ⑥ 各教科・科目等の指導において「アクティブラーニング」の視点を持ち、生徒による探究、発表、討議、ノート記述、レポート作成等により言語・探究活動の充実を図った。 ⑦ 各学年・各教科で、生徒の読書習慣を促すとともに、図書館教育の充実など読書活動の推進により豊かな言語能力を養った。 ⑧ 生徒が授業を大切にする意識をもたせるため、チャイム着席・チャイム授業の徹底を繰り返し指導し、定着させた。 ⑨ 学習記録の確認や調査、面談等多様な方法により家庭学習の状況等を把握し、保護者とも連携を図りながら、生徒が主体的に学習に臨むよう、家庭学習習慣を確立させた。 ⑩ 自習室の環境整備を通して、利用を促進し、家庭で学習する動機付けとした。 ⑪ 探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会について総合的な学習を行うことを通じて、自己の進路や目標とする将来についての課題を設定し、自己の在り方生き方を考えながら、問題解決や探究活動ができる資質・能力を育成した。 ⑫ 教科横断型授業の実施等を通して、生徒の進路希望により幅広く対応できる工夫をした。 ⑬ 「未来の東京」戦略等に基づき一人1台端末を利用した授業など、ICTの活用を進めた。 ⑭ 感染症対策における学びの保証に備え、オンラインによる学習データの充実を図った。 ⑮ 【追記】理数教育の推進と理系への興味・関心の啓発のため、科学・先端技術等に触れることで、探究的な視点を学ぶ体験活動として「笑顔と学びの体験活

	動プロジェクト」を活用して、国立天文台名誉教授・渡邊鉄哉氏をお招きして講演会を実施した。
--	--

(2) 進路指導 (生徒の進路希望実現のために)

今年度の取組目標	自 己 評 価
3年間を見通した進路指導計画に基づくキャリア教育を組織的に進めるとともに、客観的な進路データの収集とそれに基づく最新かつ正確な進路情報の提供と発信に努め、生徒の希望進路の実現を目指す。	① 生徒一人一人が将来の職業や専門を踏まえた進路希望を実現するため、進路指導部が主導して3年間を見通した進路計画を立案し、LHRや総合的な学習の時間等を活用した体系的なキャリア教育に取り組み、将来の職業選択を見据えた進路選択ができるようにした。 進路計画と進路の手引を使った進路計画を毎学期の拡大分掌会議で確認し、各学年での進路指導の様子を情報交換しながら、進路計画を立案した。LHRや総合的な学習の時間を使って、進路関係業者主催のキャリアガイダンス・キャリア教育・分野別説明会などを開き、生徒の進路実現への道を切り開いていった。 ② 生徒が早期に進路目標を立てられるよう、社会人や卒業生、高大連携等も活用しながら進路講演会や進路説明会等を企画した。 12月にはコロナ過で3年間実施できなかった1年生対象の中央大キャンパスツアーを復活させ、本校から進学した大学生の話や、学内見学、大学からの説明を受け大学進学への大きな動機付けとなった。また2年生対象に合格者座談会を開催し、先輩の実体験の話は生徒に良い刺激となり講評であった。 ③ 学年別の進路便りを発行し、各学年に応じた進路情報を発信した。 学年と分掌とで学年だよりを発行して、生徒への情報提供を図った。 ④ 定期考査や実力テスト、模擬試験等のデータ分析を活用して、生徒の進路実現に向けた学力分析や研修会を実施し学力向上と進路選択のために役立たせた。また模試試験のデータを活用して、学年だよりでその分析結果を示し、生徒や教科に対する意識付けを行い、模試分析会を実施し教員間で情報の共有を図ることができた。 ⑤ 進路調査を実施し、本校生徒の正確かつ客観的な実態把握に努め、そのデータを全職員が共有することで進路指導に役立たせた。 ⑥ 進路室のインターネットの活用やオープンキャンパスへの参加等を促し、生徒が自ら情報収集できる力を育てた。 ⑦ 面談週間を利用して1・2年生全員との二者(三者)面談を実施し本人・保護者との共通理解に基づく進路実現に最善な科目選択ができた。 ⑧ 6月第1週に夏期講習の講座数・日程を生徒・保護者に周知し、生徒に夏季休業中の学習計画を立てさせた。今年度は進学対応の26講座を開講した。 ⑨ 休業期間以外でも希望者を募り多くの教科・科目で補習講習を行い、生徒の進路実現に努めた。 地歴・公民科の共通テストの補習、英語科の英検の補習など、多くの科目で補習講習を行って、共通テストでの点数獲得に効果があった。 ⑩ 資格取得に向けた講習を実施し、英語検定・漢字検定等の資格試験に積極的に取り組ませた。特に英語検定はチャレンジして2級以上を獲得した3年生が102名輩出し、実際の大学入試外部検定利用で大いに役立ち今年の私大受験の良好な結果に影響を与えた。

(3) 生活指導（豊かな人間形成のために）

今年度の取組目標	自 己 評 価
都立高校生活指導指針に基づき、全教職員の共通理解のもと、基本的生活習慣と規範意識を高める指導を徹底することで、落ち着いたおだやかな校風を維持する。	① 生徒が納得できる指導を全教員が一致して行えるよう、指導基準や指導方法について年度当初に生活指導部中心に再確認を行うとともに、体罰根絶への意識の徹底に努めた。 ② 学校生活のルールを生活指導部主体に整備し生徒に周知し、制服の着用指導の徹底など、頭髮・服装・身だしなみの指導を定期的・継続的に実施した。特に次年度に向けて教員による指導に差が生じないように共通理解を図った。 ③ 学年を中心に学期遅刻5回ごとに、指導を実施した。また、学年集会で注意を喚起するとともに、保護者会を通じて家庭の協力を依頼した。 ④ 駐輪指導や清掃指導、学校生活のルールを遵守することの指導等により、生徒が気持ちよく学習に取り組める環境の整備に努めた。また状況に応じて近隣の交差点での登校指導を行い、ルールを順守する意識を高めた。 ⑤ 始・終業式ごとに挨拶をする意識を高める啓発を行った。生徒会の生徒を中心に、挨拶運動を行った。 ⑥ いじめ防止基本方針に則り、いじめのない校風を維持するため、いじめは絶対許さないという毅然とした態度で、生徒に意識付けを行った。 ⑦ 生徒に命の大切さを伝え、生徒同士が常に思いやりをもって学校生活を送らせるとともに、教員は生徒の相談などを受け入れる体制を作り、いじめと自殺の未然防止に努めた。 ⑧ 公共ルールの遵守やSNSルールに基づくインターネット・携帯電話等の適正な利用について、適宜リーフレットを配布し指導を計画的に実施した。 ⑨ 教科「人間と社会」を通して、より良い生き方を主体的に選択し、行動するよう指導した。特に「自主的」と「主体的」を混同しないように指導した。 ⑩ 【追記】本校生徒会が、認定NPO法人育て上げネットと協働で、ヤングケアラーに関するパンフレットを作成し、取組が新聞で紹介された。作成に携わった生徒5名は東京都教育委員会から表彰された。 ⑪ 【追記】自転車利用中のヘルメット着用推進の為、動画等を配信し生徒及び保護者への指導・啓発及び教職員への啓発を図った。また、自転車通学証の許可条件の変更を行い、ヘルメット着用を条件とした。

(4) 特別活動・部活動（生き生きとした高校生活のために）

今年度の取組目標	自 己 評 価
文武両道を目指して、部活動と学習との両立を図りながら部活動を活性化させ、また、体育祭・公孫樹祭等学校行事の充実を図る。	① 生徒の部活動への加入率・継続率を高め、積極的に活力のある充実した学校生活を送らせるように努め、各部で活動計画をたて文武両道の環境を整えた。 ② ホームページやSNS、部活動掲示板等を有効に活用し、日々の活動状況や成果を学校内外に積極的に公表し、活動の動機づけとした。 ③ 補習等と部活動が重なった場合の補習優先の原則の徹底や、活動時間の厳守等時間規律の徹底を図ることで、限られた時間内での計画的かつ効率的な活動ができた。 ④ 全活動終了後の下校時間の厳守や帰宅後の有効な時間の使い方等時間管理の指導を徹底し、メリハリのある学校生活を送ることができるように指導し、部活動単位での自学自習を推奨し定着を図ることができた。

	⑤ 生徒会組織を活発に機能させることで、生徒が自ら考え、主体的に判断・行動できる場面を意図的に設定しながら適時適切な指導を入れ、生徒に自信と責任感を持たせ、生徒の学校行事への満足度を高めることができた。 ⑥ 創立 50 周年に向かって生徒主体の活動として展開し、行事等との連携を図ることで生徒の学校への帰属意識を高めることができた。 ⑦ 【追記】「東京都高等学校文化祭 美術・工芸部門 中央大会 第 34 回中央展」に美術部員 10 名が出品し、最優秀賞である東京都教育委員会賞を 2 名が、東京都文化連盟会長賞を 1 名が受賞した。2 名は来年度開催される第 48 回全国高等学校総合文化祭（ぎふ総文 2024）に、東京都代表として出品予定。本校の総文祭出品は 3 年連続である。
--	--

（５）安心安全と健康づくり（安心安全と健康で豊かな高校生活を保証するために）

今年度の取組目標	自 己 評 価
心身の健康と安全に対する意識を高め、健全育成を支援する。校内の美化を徹底し、学習環境を整えて、豊かな学校生活を送らせる。	① 防災訓練を 9 月に実施し小平消防署と連携することができた。避難施設設営等の訓練を行い、有事の際の高校生として被災者への主体的支援を学ぶことができた。 ② 所轄警察署との連携により薬物乱用教室や交通安全教室を実施し、安全教育を推進した。特に小平警察との連携は積極的に図った。 ③ 体育健康教育推進校の取組の一環として、学校全体の生徒の「ウェルビーイング」を高めるため、京都メンタルサポート夢得 yu~eru 代表石川真由美氏を講師にお招きして、「夢実現の法則～自分を成長させるための最強メンタルの作り方～」と題して講演会を実施した。ポジティブになることの大切さがよく分かり、生徒にとっても教職員にとっても、非常に学びの多い場となった。 ④ 保健の授業や家庭科の授業を通して、食育や心身の健康に関する内容を適宜取り上げ、感染症対策を含んだ生活防衛意識を高めた。 ⑤ 健脚大会と体育祭、部活動合宿の実施によって、体力向上を推進した。 ⑥ 養護教諭を窓口、スクールカウンセラーの協力により、必要に応じて関係機関との連携を図り、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラー、教員との連絡会も開催し情報共有に努めた。不安や悩みを抱えている生徒・保護者を中心に相談する体制を構築した。西部地区都立学校総合支援連絡協議会の伝達研修を実施し意識を高めた。 ⑦ 美化委員会を活用しながら校内の美化に努めた。日々の清掃や大掃除により生徒の美化意識を高めてきた。 ⑧ ゴミの分別を徹底するよう継続的に指導し感染症対策の為、校内のゴミを減らすよう呼びかけを行った。

（６）募集・広報活動（本校のよさを都民にアピールし、志願者を増やすために）

今年度の取組目標	自 己 評 価
全教職員の協力体制に基づいて、本校の良さをアピールする、組織的かつきめ細かな募	① 新入生アンケートを分析し学校説明会等に取り入れ募集広報活動に生かした。 ② パンフレットを刷新し、内容を変更しアピール度を向上させた。次年度も刷新を継続していく。 ③ 美術科や写真部の協力のもと、数多くの作品を校内に展示し教育活動の可視化に努めた。来校者からも好評を得ている。

集対策の充実を図る。	④ 夏季休業中に見学会を20日間実施し、1208名の参加を見た。 ⑤ 新1年生による母校訪問を97校実施、224校へ郵送した。校長による60件の塾訪問、塾での説明会を4件実施した。 ⑥ 都立高校合同説明会の他、外部団体では私塾協同組合主催受験相談会をはじめ計4カ所の説明会に参加した。 ⑦ 中学校主催の説明会には計5校、部活動の交流体験も5校で行った。 ⑧ 小平第十小学校で開催された地域主催の避難所設営訓練に生徒会役員が参加し、美術部・写真部の作品の地域スーパーマーケットでの展示を行った。また学校開放事業を行い地域交流・地域貢献に努めた。 ⑨ ホームページを更新し、タイムリーな掲載が出来るようになった。 【更新回数246回（昨年212回）】
-------------------	---

（7）学校運営・組織体制（本校の使命を達成できる機能的で活力ある組織づくりのために）

今年度の取組目標	自 己 評 価
校 内組織を活性化し、より良い学校づくりを目指した取組等を積極的に支援する校内の協働体制を確立するとともに、教職員の資質能力の向上を図る。	① 学校評価アンケートの結果をふまえ、学校改善の立案や対応を行い、募集対策にも適切に活用していくことができた。課題を教職員で共有し、企画調整会議を中心に具体的対応策を検討し、改善する流れを確立することができた。 ② 企画調整会議を核にして、学年会・分掌部会との情報の相互伝達と共有化を図った。 ③ 経営企画室長の事務処理方針に基づき、経営企画室の経営参画を推進した。 ④ 諸会議の上限時間を設け計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図った。併せて育児休業等取得の意義について周知し男性職員の育児休業取得の促進と産業医と連携して定時外在校時間及びその要因となる業務内容を把握し指導してきた。 ⑤ 統合型校務支援システム（C4th）への対応を、学校全体で行い。スムーズな業務を遂行している。 ⑥ 教科会等を活用し、カリキュラムマネジメントの充実を図った。本年度より進学指導に対応できる授業研究を行うため国語、地歴・公民、数学、理科、英語、情報の6教科で予備校での教員研修を行った。 ⑦ 生徒による授業評価をもとに各教員、各教科で授業改善のため共通理解を図った。 ⑧ 若手育成研修や中堅教員等資質向上研修の研究授業や授業実践交流会等により、授業実践の共有を進め、高めあう。計画的OJTにより、キャリアアップを図った。 ⑨ 互いの授業参観を推進し、教員個々の授業力の向上を図った。約半数の教員が実行できた。 ⑩ 探究的な内容を含むグループ学習を行う授業が増え、研究授業や相互の授業参観によって教員の意識が高まった。 ⑪ 教育課程委員会において、教育課程についての評価・改善を行うとともに、高大接続改善への対応について研修・検討を推進した。 ⑬ 感染症防止にかかる業務を学校全体で組織的にを行い、生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境を整えてきた。 ⑭ 自律経営推進予算の計画的な事務執行を進めた。

	⑮ 経営企画室職員と教育職員との連携を強化し、施設検討委員会を中心に、中長期的見通しに立った施設・備品・設備の更新を行った。
--	--

(8) 国際理解教育（グローバル人材の育成に向けて）

今年度の取組目標	自 己 評 価
東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、国際理解教育をすすめる、社会に積極的に貢献しようとする態度を育成する。社会のグローバル化に対応できる人材を育成する。	① 令和3年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校の成果を受け、環境に配慮した生活を意識し持続可能な社会の一員としての姿勢を身に付けさせるよう指導した。 ② 平成29年度の伝統・文化教育推進校指定の成果を受け、JET青年等との文化交流活動を行い異国の伝統・文化を学び、日本の伝統・文化の良さを発信する能力の育成に努めた。 ③ 自国の文化を大切に、多様性を尊重できるよう異文化理解を進め、講演会等の国際理解教育に関する取組を推進する。 ④ 次世代リーダーの要旨説明を実施し、留学の魅力をアピールした。

2 重点目標への取り組みと自己評価

重 点 目 標	具体的な数値目標と結果	評価
ア 学力向上と学習習慣の確立を図る。	○家庭学習習慣の確立 授業以外の平均学習時間 1 学年 1. 70 時間（昨年 1. 50 時間） 2 学年 1. 20 時間（昨年 1. 10 時間） 3 学年 3. 40 時間（昨年 4. 20 時間）	◎ ◎ △
イ 進路希望の実現に努める。	○センター試験出願率 ⇒ 85. 0 %（昨年 85. 0 %） ○国公立大学(含認定大学校)合格者(現役・浪人延べ人数) ⇒ 5 名（昨年 10 名） △ ○早慶上理 G M A R C H 等難関私立大学現役合格者(延べ人数) ⇒ 74 名（昨年 111 名） △ ※早慶上理については 10 名から 14 名となり 4 名増加した。 ○國學院・成蹊・成城・武蔵・明治学院・日東駒専現役合格者(延べ人数) ⇒ 199 名（昨年 236 名） △ ○長期休業中の講習等の講座数 ⇒ 26 講座（昨年 25 講座） ○生徒の進路指導に対する満足度 ⇒ 75. 0 %（昨年 76.2 %） ○	○ △ △ △ ○ ○
ウ 部活動と学校行事の活性化を図る。	○部活動加入率（5 月末段階） ⇒ 85. 1 %（昨年 87. 3 %） ○生徒の学校行事に対する満足度 ⇒ 健脚大会 28. 9 %（昨年 27. 6 %）、 体育祭 81. 0 %（昨年 79.5 %）、公孫樹祭 85. 4 %（昨年 82.6 %）	○ ○
エ 組織的かつきめ細かな募集対策を実施し、本校の志願者を増やす。	○学校見学会の参加者数⇒ 1208 名（昨年 771 名） ○学校説明会の参加者数⇒ 1566 名（昨年 3 回 1000 名） ○合同説明会の参加者数⇒ 192 名（昨年 175 名） ○中学校等への訪問（年間の延べ校数）⇒ 321 校 ※内郵送 224 校 ○応募倍率（推薦） ⇒ 3. 3 倍（昨年 2. 3 倍）	◎ ◎ ◎ ◎ ◎

	○応募倍率（一次） ⇒ 1.64倍（昨年1.55倍） ○ホームページの年間更新回数 ⇒ 246回（昨年212回）	◎ ◎
オ 学校評価を 活用した学校 改善を進める。	○学校評価アンケート回収率（生徒） ⇒ 91.8%（昨年92.9%） ○学校評価アンケート回収率（保護者） ⇒ 53.5%（昨年39.8%） ○学校評価アンケート回収率（教職員） ⇒ 100%（昨年100%）	○ ◎ ◎

◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成

Ⅱ 次年度以降の課題と対応策

普通科中堅校として、進路実績の持続的・継続的な維持・向上を目標に、組織的な進路指導の充実と進学指導に対応できる授業力の向上、教育環境の整備を進めてきた。本校の伝統である落ち着いた穏やかな校風の維持と心身にバランスの取れた健全育成を目指し、教育活動を更に充実・継続して展開していく。今年度も取り組んだ教科横断的な授業による生徒の探究的姿勢の情勢を来年度以降も継続し本校の特徴として定着させ、本校の特徴化を図りたい。

○文武両道～豊かな心と確かな学力を育てる学校

本校はこれまで、豊かな心と確かな学力を育成するために、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指し、生活指導部と学年の連携を密にしながら、学校全体で取り組んできた。生活指導部の自転車指導や学年担任による遅刻指導は組織的対応の結果、確実に成果もあり、服装や挨拶の指導にも教員がより積極的に生徒一人一人に指導する姿勢が表れ、その結果、生徒の学校生活に取り組む姿勢にも積極性が現れるようになった。しかし、現状に満足することなく本校の経営方針も含め、学校としての統一見解を全教員に一層徹底し、生徒にも周知したうえで、全教職員が同じスタンスで指導を行い、本校の経営方針をより明確に示す必要がある。また、全ての施設が整備され6年目となり活動や体育的行事がより活発になってきたが事故が起きないように十分配慮すると共に、安全への意識を継続してもたせる必要がある。充実した施設設備を使用する体育諸行事や部活動など、生活指導部を中心に安全・安心で、かつ計画的な利用の配慮を行っていく。チャイム授業の一層の徹底や下校時間の厳守等、様々な場面で生徒に時間の有効利用を意識させる指導を行い、メリハリのついた、けじめのある学校生活を送らせる。

○進路希望の実現～生徒の夢や希望を実現させる学校

「行ける大学」ではなく「行きたい大学」へ、の意識を生徒にもたせ、進路指導部を中心として進路に関する説明会や講習・補習などを実施して成果をあげている。今後は、生徒の進路実現に向けた生徒の自覚を三年間維持させること、これまでに蓄積されてきた進路指導データを有効活用して根拠に基づいた進路指導・教科指導を行っていくことが必要である。生徒・保護者のニーズである難関校の合格を目指すには十分な準備期間と学力が必要であるが、第一学年から二番手意識から脱却し、積極性を引出し高い意識をもたせ、基礎学力を充実させ家庭学習時間を伸ばし生徒の伸び代を埋めていくことができる。生徒の基礎学力を充実させるには、宿題・課題を出すだけではなく、その内容・方法も問われ、教員の指導力が重要になってくる。生徒の基礎学力の充実と進路実現のために、学校全体で授業力向上に向けた取組もと、授業改善が更に必要である。生徒にとって進路が抽象的なものでなく、具体的手段と方法で対応できることを教師が示し、それをより多くの生徒が行うことで生徒の進路が実現することを組織的な体制で指導していく。3年前から継続している教科横断的な授業の研究及び実践を継続する。生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、全教職員一丸となって更に、具現的・継続的な学校改革を進めていく。